

この街だから、できること。

glocal

岡山商工会議所会報

vol.274 2017 / 3



岡山大学 地域総合研究センター
センター長

三村 聰 氏

岡山商工会議所
運営委員会委員長

古市 大藏 氏

特集 I

「桃太郎のまち」 岡山市グランドデザインの あるべき姿

第2回「おかやま地域発展協議体」の役割を考える

人口減少社会・超高齢化社会を迎える中、

多くの地方都市で切実な問題が生じてきます。

若者の流出を防ぎ、地域の産業を振興・継承し、

資源を活用した賑わいを創出するには何が必要なのか。

岡山市では平成28年4月、

岡山大学地域総合研究センターを事務局とする

「おかやま地域発展協議体」が創設されました。

地域の教育再生、技術と環境、医療、まちづくりについて、

テーマを絞り、本音で議論し、

社会実証を通じて岡山の未来を検討します。

岡山市の未来を懸念する古市大藏氏と

岡山大学地域総合研究センター長の三村聰氏に

協議体の役割について語っていただきました。

特集 II

「桃太郎のまち」岡山市グランドデザインのあるべき姿 新委員長に聞く

第2回「おかやま地域発展協議体」の役割を考える
実行力のある委員会活動を目指して

主要記事

飛躍への決断——(学)森教育学園

平成28年度岡山県内の資金関係調査報告
岡山商工会議所伴走型小規模事業者支援事例



「制作中」国吉康雄 福武コレクション蔵

今月の表紙

「制作中」 国吉康雄(1889/岡山-1953/ニューヨーク)

1943年 カゼイン 48.6×35.6cm 福武コレクション蔵

国吉が描いた最後の自画像だ。ユニバーサル・ウーマンと呼ばれる国吉の名を不動のものにした女性画の制作中。この一瞬に様々なドラマが交錯している。この頃から国吉の絵のメッセージ性は色濃くなる。その国吉作品を世界で最も多くコレクションするのが岡山だ。この一年、コレクションの一部を紹介してきた。ぜひ本物の前に立ち、国吉の語りかける言葉に耳を傾けてみてほしい。

(解説 才士 真司)





岡山大学の学生とカナダからの留学生がともにバルの企業でインターンシップに取り組むグローバル教育を実施。地元の先進企業を知ることで、学生の教育を変えたい

ストラスブルールの元市長カトリーヌ・トロットマンさんは「大学というダイヤモンドを納めるための素晴らしい宝石箱を創る必要があり、私たちはその使命を負っている」と述べています。宝石箱が街だとしたら、岡山大学はもとより大学コンソーシアム岡山【※1】を含めた他の大学のあり方が問われます。そこで、都市と大学の未来の価値観を共有するためにはどうしたらいいのか、お考えをお聞かせください。

まず都市と大学における未来の価値観の共有という面で、岡山大学は「おかやま地域発展協議体」のプラットホームを担っています。岡山大学は中立性を担保し、公共的な観点でお手伝いすることができます。その上で産官学金言が同じ土俵で、日常的にいろいろなテーマを協議し、それぞれの事業計画や活動方針を共有化していく

すると古くなっています。岡山大学で年一、二度、自分が携わっている業界について学べる仕組みができたら、学生も社会人も安心できると思いますが。

三村 すでに薬学部や教育学部では、卒業後も最先端のこと学ぶためにリカレント教育を行っています。こうした社会の担い手の育成を他の大学と連携して行っていくことも考えていました。その一方で社会人が大学で学び、真に地域産業活性化に役立つ生涯教育の展開が求められています。今までないものを大学だけではなく、経済界、自治体、マスコミなども含めて作る必要があります。本当に役に立っているのかの結果検証をもとに、自治体や経済界、大学などが本音の議論をしながら、制度の改善を進めていくことです。ストラスブルールでは費用対効果の面で一番安くつく投資が大学への投資であるとしています。人口減少の縮小均衡モデルの中で、大学も限られた予算をより効率的に活かして地域を元気にしていく道筋を本気で考えねばならない時代です。産業と大学のクラスターとしては、岡山市は医療健康による産業都市の確立を進めています。その実現にはまだ時間が必要だと思いますが、動き出していること 자체が素晴らしいと思います。また増加している留学生とオランダ協会やミャンマー協会はじめ国際的な活動を展開して

トロットマンさんは「大学というダイヤモンドを納めるための素晴らしい宝石箱を創る必要があり、私たちはその使命を負っている」と述べています。宝石箱が街だとしたら、岡山大学はもとより大学コンソーシアム岡山【※1】を含めた他の大学のあり方が問われます。そこで、都市と大学の未来の価値観を共有するためにはどうしたらいいのか、お考えをお聞かせください。

まず都市と大学における未来の価値観の共有という面で、岡山大学は「おかやま地域発展協議体」のプラットホームを担っています。岡山大学は中立性を担保し、公共的な観点でお手伝いすることができます。その上で産官学金言が同じ土俵で、日常的にいろいろなテーマを協議し、それぞれの事業計画や活動方針を共有化していく

と古くなっています。岡山大学で年一、二度、自分が携わっている業界について学べる仕組みができたら、学生も社会人も安心できると思いますが。

三村 すでに薬学部や教育学部では、卒業後も最先端のこと学ぶためにリカレント教育を行っています。こうした社会の担い手の育成を他の大学と連携して行っていくことも考えていました。その一方で社会人が大学で学び、真に地域産業活性化に役立つ生涯教育の展開が求められています。今までないものを大学だけではなく、経済界、自治体、マスコミなども含めて作る必要があります。本当に役に立っているのかの結果検証をもとに、自治体や経済界、大学などが本音の議論をしながら、制度の改善を進めていくことです。ストラスブルールでは費用対効果の面で一番安くつく投資が大学への投資であるとしています。人口減少の縮小均衡モデルの中で、大学も限られた予算をより効率的に活かして地域を元気にしていく道筋を本気で考えねばならない時代です。産業と大学のクラスターとしては、岡山市は医療健康による産業都市の確立を進めています。その実現にはまだ時間が必要だと思いますが、動き出していること 자체が素晴らしいと思います。また増加している留学生とオランダ協会やミャンマー協会はじめ国際的な活動を展開して

く。その中で、これは共有できるというテーマを協議体で決定して具体的な議論を深めています。学内の縦割りを排除し、大学が資源として地域の役に立てるレベルに至っているのかと言えば、まだ達していないと言わざるを得ませんし、他の大学との連携も図っていかねばなりません。教員の専門的な知識がどれだけイノベーションの創出や街づくり、地域医療、教育再生、環境問題等々に役立てるのかを今問われています。また本当のダイヤモンドは学生たちであり、岡山で学び、岡山を愛してくれて、岡山に残つてもらえることが、岡山の持続的な発展につながると考えます。

古市 まさに学生はダイヤモンドの原石で、それを磨くのが先生や我々経営者の役割です。ところが我々と学生の間で意思の疎通や信頼関係がまだ十分とれていない。だから親子ともに岡山の企業より大企業に、岡山の企業なら安定的な職場にという話になるわけです。そこからの脱皮を図るために、我々もまず先生方と一緒にになって原石を磨き上げることをやっていかないといけません。岡山大学はスーパー・グローバル大学に認定されていますが、それを見聞きするたびに岡山から有能な人材が減っていくのではないかと心配です。もし仮に岡山から出たとしても、ある一定の年齢になつたら帰つてくる

前戦後を含めて「身を立て、名を上げ」という意識があり、そこから偏差

生を岡大生とともに、CLT【※2】の分野で我が国最先端の技術を持つ岡山の企業に派遣しています。そこで、意識改革と同時に地元での人材の定着が喫緊の課題です。地元で就職す

ることが生涯の幸せにつながることを経て、今その意識の改革が求められています。私たちちはカナダからの留学

前戦後を含めて「身を立て、名を上げ」という意識があり、そこから偏差

生を岡大生とともに、CLT【※2】の分野で我が国最先端の技術を持つ岡山の企業に派遣しています。そこで、意識改革と同時に地元での人材の定着が喫緊の課題です。地元で就職す

ることが生涯の幸せにつながることを絏て、今その意識の改革が求められています。私たちちはカナダからの留学

前戦後を含めて「身を立て、名を上げ」という意識があり、そこから偏差

生を岡大生とともに、CLT【※2】の分野で我が国最先端の技術を持つ岡山の企業に派遣